

以上で論稿三十三篇、教室卒業生の約半数の寄稿を網羅し、それが卒業順に配列されてゐるから讀者は又本書によつて當教室の學風並にその志向を觀取されるであらう。(菊版八六八頁、定價拾圓特價九圓、古今書院發行)(米倉)

### ○考古學年報

東京考古學會編

本書は昭和九年度に於ける本邦考古學界の業績を整理し、此の方面に關心を持つ人士の便宜に資せんが爲に編輯したものである其の内容は先づ考古學文獻の總目をばA考古學一般・理論文獻、B日本内地考古學文獻、C同歴史考古學文獻、D日本内地以外考古學文獻の四項に分かつて列舉し、これに地域別索引と筆者別索引とを附し、次にその内主要なる論著の梗概及び批評を掲げ、更に同年度に於ける本邦考古學界の動向を説き、猶卷末には附録として英文の學界展望を載せて居る。誠に適宜と稱すべき年報であつて、文獻の點に於ては殆ど遺憾なしと思はれる程度まで網羅され、主要論著の紹介批評、學界展望なども簡にして要をつくして居る。かゝる年報はそれ自體の價值もさることながら、これを繼續することに依つて更に使命を發揮するであらう。されば編者の勞を多とすると共にこれが繼續を祈つて止まぬ。猶終りに注文として可及的に圖録轉載の期望を望む次第である。大阪市住吉區阿部野筋三ノ十、東京考古學界發行、定價壹圓四拾錢(小野)

## 彙報

### ○京都帝國大學紀和地方見學旅行記

第一日(五月二十三日)

日前神宮、國懸神宮、伊太波曾神社、龍山神社、東照宮、紀三井寺、

此日前夜の雨模様は打つて變つた快晴となり、前途の萬幸を約する様である。午前七時には藤山出雲路・柴田三先生を始め卒業生學生の京都驛頭に集る者二千數名、途中大阪から参加もあり、九時半阪和東和歌山驛に降り立つ者丁度三十名となつた。

日前神宮、國懸神宮、驛より東へ步行數町鳥居をくゞれば、眞直に北に連る參道を軸として、左に日前大神を祭る日前宮、右に國懸大神を奉祀する國懸宮があり、一は日像鏡他は日矛を御靈代とすると傳へてゐる。日像鏡及日矛に關する神話は更に説く迄もないが、由來此の兩大神は即ち天照大神の權姿とせられ、朝家の御崇敬極めて厚かつたことは天武平城文德清和の歷朝、幣帛、神封或は神寶を奉獻されたことが史に見え、又延喜式には、名神大社に列し、祈年月次新嘗の諸祭及び特に相嘗の祭にも官幣に預つてゐる例によつても祭せられる。更に此の御神と此の紀の土地との關係には、天道根命を始祖とする紀國造家が連綿として此の神の司祭奉祀に當り今に及んでゐる地縁血縁的な深い繋りがあり近くは徳川頼宣が初めて紀伊に入國するや、先づ此の兩宮の社殿